

香南市に移住されたお宅を訪ねました。
今回は大阪から香我美町の山里に移住された小田憲史さん宅を訪問。古民家を改築し移住されて1年。香南市での暮らしのエピソードを紹介します。
(編集委員 島村立法)

◆明治30年代の古民家との出会い

小田さんが古民家を見に来たのは平成26年の2月のことで、香我美町の静かな山裾にある20年間余り誰も住んでいなかった空家。その時にかなり老朽化した民家を見て一時断念。他の家を探してみたが、県内で希望に合った家になかなか出会えなかったそうです。

一旦断ったのですが、奥さんがこの環境が気になっていたので、「日当たりも良く、隣棟間隔も適当にあり、街に出るにもそれほど遠くない環境だと感じました」。小田さんの場合、県外からダイレクトに香南市へ移住したわけではなく、高知で仕事をしていて関係で8年の南国市暮らしを経て、高知定住を模索。数年かけて家探しをしたそうです。

実は小田さんは建築の先生として教壇に立ち、退職までは南国市の宿舎に住んでいました。

退職後の生活を大阪で暮らすか、高知で暮らすか、「できれば大阪の両親と一緒に高知で暮らせたらいいな」と移住を考えてくれたそうです。そして、家族で話し合っただけでなく、小田さんはこの民家を改築して暮らす決心をされました。

◆建築にこだわった改築工事

建築のノウハウを熟知した小田さんは古民家専門の業者と綿密な改築プランを打ち合わせ、昨年3月に完成。古民家の良さを残した改築には石垣と庭木整備や玄関・天井裏スเปース、間取り、水回り、瓦の葺き替えなど大幅にリフォーム。随所に残せる所は補強。「梁や柱の骨組みはそのまま使っています」と快適な生活空間を実現されています。

住宅は、一見新築かなと思うくらい完成度。一番のこだわりはバリアフリーを取り入れたことだそう。今では奥さんも住み心地に満足されているそうです。

◆一年住んでみてわかったこと...

「地域の皆さんが私たちを受け入れてくれたのがとても嬉しいです」。小さな集落では気さくな挨拶やお辞儀だけでも嬉しいこと。ここに住んで驚いたのは「何のおいかな」と思ったら、山北みかんの花の香りがするんですよ」と笑顔の奥さん。

野菜なども都会と新鮮さが大違いとのこと。「孫たちが来た時

に、星が凄くきれいと感じた。高知の野菜を必ず買って帰ります」。

「学校の学生がこの地域に何人かいるのびびくりしました。その保護者と地域との出会いも小田さんにとってうれしい出来事。地域の人と自然に囲まれながら「ウグイスや野鳥のさえずり」でここに住んでいる」と、しみじみ実感するそうです。

◆人があったかい、食べ物が美味しい香南市へ

香南市に来て「食べ物美味しい、都会にはない人のあたたかさを感じる」と移住された多くの皆さんが言います。小田さん一家はダイレクト移住ではなく最終的に定住に至ったケース。他にもダイレクトに香南市民になった方々も増えています。

これからも素敵なまちで仲良くイキイキ暮らしていきましょう。



▲小田さん一家

【広報誌では、香南市へ移住してこられた方の声を集めることを企画しています。】



編集後記

▼社会人1年目、そして新規採用でまさか広報を担当させてもらえることになるとは思いませんでした。おそらく最年少での広報担当ということ、とにかく若さを活かして受け身ではなく積極的にいろいろなことに挑戦します。これまで広報を担当してきた先輩方に負けないように、市民の皆さんに愛される広報をお届けするために全力で頑張りますので、どうぞよろしくお願いたします。
(原涼太 23歳)

▼あつという間の広報担当4年間。入学式の季節ですが、少し遅れての卒業となりました。辛かったこともあったはずですが思い返すと楽しかったことばかり思い出せません。今までもりがとつとつありました。
(尾原 健敏)

《広報へのメール》

kouhou@city.kochi-konan.lg.jp
《香南市のホームページ》
http://www.city.kochi-konan.lg.jp

i 広報誌

スマホで
広報を見よう

i 広報誌アプリの
ダウンロードは
こちらから

香南市で暮らして1年 ～移住 香南市を選ぶ～